

DELPHION

[Log On!](#) [Work Files](#) [Saved Searches](#)

RESEARCH

PRODUCTS

INSIDE DELPHION

My Account

Search: Quick/Number Boolean Advanced Derwent Help

No active trail

[Select OR](#)[Stop Tracking](#)

The Delphion Integrated View

Get Now: ☒ PDF | [File History](#) | [Other choices](#)View: [INPADOC](#) | Jump to: [Top](#) [\[v\]](#)Tools: Add to Work File: [Create new Work File](#) [\[v\]](#) [Add](#)☒ Email this to a friend

Title: JP05137820A2: PUTTER HEAD

Country: JP Japan

Kind: A

Inventor: MIYAZAKI KAZUAKI;

Assignee: MITSUI ENG & SHIPBUILD CO LTD
[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

Published / Filed: 1993-06-01 / 1991-11-20

Application Number: JP1991000331453

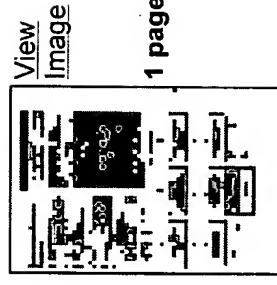
IPC Code: Advanced: [A63B 53/00](#); [A63B 53/04](#);
Core: more...
IPC-7: [A63B 53/00](#); [A63B 53/04](#);

Priority Number: 1991-11-20 JP1991000331453

Abstract: PURPOSE: To provide a putter capable of giving an address for maintaining always, constant not only the driving direction, but also the loft of a face surface and the inclination of a sole.

CONSTITUTION: A reticle 24 composed of a line engraved along the rear extension of a sweet spot and a line engraved parallel to a face surface is engraved on the upper surface part of a putter head. Also, a check plate 26 spaced above from the engraved surface and having a check reticle 28 engraved similarly to the reticle 24 provided. The putter head can be always set to the optimum address state by aiming simultaneously the reticle and check reticle to make both coincide with each other.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio



BEST AVAILABLE COPY

Family: None

Forward
References:

Go to Result Set: Forward references (1)

PDF	Patent	Pub.Date	Inventor	Assignee	Title
	US6062986	2000-05-16	Kaise; Yukihiro		Putter club

Other Abstract

Info:



Nominate this for the Gallery...



Subscriptions | Web Seminars | Privacy | Terms & Conditions | Site Map | Contact Us | Help

Copyright © 1997-2007 The Thomson Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-137820

(43) 公開日 平成5年(1993)6月1日

(51) IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 B 53/04	H	6976-2C		
53/00	E	6976-2C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全5頁)

(21) 出願番号 特願平3-331453

(22) 出願日 平成3年(1991)11月20日

(71) 出願人 000005902

三井造船株式会社

東京都中央区築地5丁目6番4号

(72) 発明者 宮崎 和明

岡山県玉野市玉3丁目1番1号 三井造船

株式会社玉野事業所内

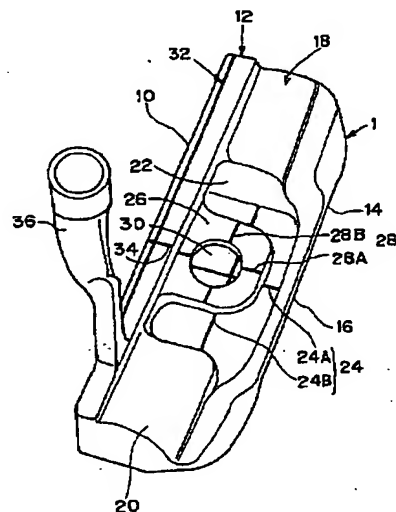
(74) 代理人 弁理士 村上 友一 (外1名)

(54) 【発明の名称】 バターヘッド

(57) 【要約】

【目的】 打出し方向のみならず、フェイス面のロフトおよびソールの傾きを常に一定に維持したアドレスができるバターを提供すること。

【構成】 バターヘッドの上面部分にスイートスポットの後方延長線に沿った線刻とフェイス面に平行な線刻から構成される十字線を刻設する。また、この刻設面の上方に離間配置して前記十字線と同様なチェック十字線を刻設したチェックプレートを設置する。十字線およびチェック十字線を同時に視準し、両者が一致するようにセットすることにより最適なアドレス状態に常にセットすることができる。



10: バターフェイス	24: 十字線
12: フェイスプレート	26: チェックプレート
14: ソール	28: チェック十字線
16: ソールプレート	30: 月形マーク
18: トウブロック部	32: フェイス線刻
20: ヒールブロック部	34: 押し出し方向線刻
22: 凹陥部	36: リセット

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 バターヘッドの上面部分にスイートスポットの後方延長線に沿った線刻とフェイス面に平行な線刻から構成される十字線を刻設し、この刻設面の上方に離間配置して前記十字線と同様なチェック十字線を刻設したチェックプレート进行、十字線およびチェック十字線を同時に視準可能としたことを特徴とするバターヘッド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はバターヘッドに係り、特に3軸方向のチェックを可能としたバターヘッドに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のバターヘッドにはゴルフボールを所定の初速とスピンをかけて目的方向に正確に打出すための種々の改良が施されている。例えば、特開平2-71769号公報や特開平3-18380号公報に示されているように、これらはボールの打出し方向を決定するガイド線をバターヘッドの上面に設けてアドレスを行わせるようにすることを主眼としている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のバターヘッドでは、フェイス面を打出し方向に直角にアドレスするための工夫が施されているものの、フェイス面のロフト（アッパーあるいはダウフェイス）、ソール面の傾き（トゥ／ヒールの水平度、トゥ／ヒールのセット）等についてはチェックする方法がなく、バッティングを困難なものとしている。すなわち、アドレスの際に腕、グリップ、シャフト、およびバターフェイスを再現性よく常に一定の位置、方向に維持することは、例えば従来のような打出し方向のガイド線を設けた構造のバターを使用しても、経験豊富なプロ選手を除いて、一般のプレーヤーには極めて困難となっているのである。

【0004】本発明は、上記従来の問題点に着目し、打出し方向のみならず、フェイス面のロフトおよびソールの傾きを常に一定に維持してアドレスができるようにしたバターヘッドを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係るバターヘッドは、バターヘッドの上面部分にスイートスポットの後方延長線に沿った線刻とフェイス面に平行な線刻から構成される十字線を刻設し、この刻設面の上方に離間配置して前記十字線と同様なチェック十字線を刻設したチェックプレート进行、十字線およびチェック十字線を同時に視準可能としたものである。

【0006】

【作用】上記構成によれば、プレーヤーはバターヘッドの上面部分に刻設された十字線とチェックプレートに刻

2

設された十字線とが一致するようにアドレスをとることにより、フェイスロフトおよびソールの水平度を常に一定にすることができる。そしてスイートスポットの後方延長線に沿った線刻を打出し方向に一致させることによりバターヘッドを3軸方向で常に一定になるようにチェックしアドレスをとることができるのである。このため一般のプレーヤーでも最適な状態に必ず再現でき、安定したバッティングをなすことができる。

【0007】

10 【実施例】以下に、本発明に係るバターヘッドの具体的実施例を図面を参照して詳細に説明する。

【0008】図1～図3は実施例に係るバターヘッドの斜視図並びに断面図である。これらの図に示すように、当該バターヘッドはバターフェイス10を形成するフェイスプレート12と、ソール14を形成するソールプレート16とによって断面L字状に構成されており、また、前記ソールプレート16の両端上面にはトゥブロック部18とヒールブロック部20を設けた構成とされている。これらは一体に成形あるいは削り出しにより形成されている。このような構造のバターヘッドとしたことにより、フェイス10におけるスイートスポット領域の背面部に凹陥部22を形成しており、この凹陥部22の空間を利用してアドレス設定用のマーキングを形成するようにしている。

【0009】まず、前記凹陥部22におけるソールプレート16の上面にはスイートスポットの後方延長線に沿った線刻24Aと、フェイス10の平面に平行な線刻24Bから構成される十字線24が刻設されている。そして、この十字線24の刻設面の上方に離隔した位置、具体的にはフェイスプレート12の上縁部分に上記十字線24を覆うように後方に水平に張り出した舌片状のチェックプレート26を設けており、これに前記十字線24と同様にスイートスポットの後方延長線に沿った線刻28Aと、フェイス10の平面に平行な線刻28Bから構成されるチェック十字線28を刻設している。上下に離間して刻設された十字線24、28は、これらが一致するように、すなわちスイートスポットの後方延長線に沿った線刻24A、28Aが一直線になり、またフェイス10の平面に平行な線刻24B、28Bが一直線になるように視準調整することによりバターヘッドが最適なフェイスロフトとソール水平度となるように設定されている。この場合、チェックプレート26は下面の十字線24を覆い隠してしまうので、実施例ではこれに刻設されたチェック十字線28の交差部分に円形窓30を形成し、この窓30から覗き込んで上下十字線24、28が一致させるようにしている。

【0010】一方、前記フェイスプレート12の上端面にもフェイス10に平行なフェイス線刻32とスイートスポット後方延長線に一致する打出し方向線刻34が形成され、ボールへのアドレスが的確に行われるようにし

ている。

【0011】なお、ヒールブロック部20側におけるフェイスプレート12の上縁にはバタースhaftを取付けるためのソケット36が設けられている。

【0012】このように構成されたバターヘッドの作用は次のようになる。このようなバターヘッドをボールの後方に置き、フェイスプレート12の上面に刻設された線刻32、34を目安にしてフェイス10を打出し方向に対して直角に設定する。そして、チェックプレート26の窓30を通して、上下十字線24、28の各線刻24A、28Aが一致し、および24B、28Bが一致するようにShaftを通じて前後左右に傾斜させて調整してセットしてアドレスする。これにより、バターのフェイス10は打出し方向に対して直角に設定されるとともに、そのロフトおよびソール14の水平度が一定に保持される。プレーヤーはこのセット状態から、バターの打出す方向と平行に線刻した上下2段の線の重なりを合わせたまま後方にテークバックし、その起動を反復したスイングを行うことにより、ボールをより正確に目標の方向に打出すことができる。

【0013】したがって、この実施例に係るバターヘッドを備えたバターを用いることにより、そのアドレスに際して、フェイス10の直角度、フェイス角度の傾き（ロフト）、ソール14のトゥ／ヒールの傾きを3軸方向からチェックすることができ、常に一定コントロールができるので、正確に安定した打球を打出すことが可能となる。

【0014】なお、上記実施例では上下十字線24、28を円形窓30を通して視準するようにしているが、図4(1)に示すように、チェックプレート26を下部十字線24の交差部直上位置に配置し、これを下部十字線24に重ならない支持アーム38によって取付けるようにしてもよい。また、フェイスプレート12の上端面に線刻32、34を形成しているが、フェイス線刻はフェイスプレート12の稜線を利用し、打出し方向線刻34はチェック十字線の線刻28Aを延長することによって対処できるので、必ずしも必要がない。

【0015】また、プレーヤー自身の好みによりロフト角やトゥ／ヒールの傾きが設定値と異なる場合があるため、図4(2)に示すように、チェック十字線28に平行な目盛線刻40を施し、プレーヤーの要求するロフト角、およびトゥ／ヒール傾き角を設定できるようにすることも可能である。

【0016】更に図5にプレーヤーの好みに応じたセットができるようにした変形例を示す。これはチェックブ

レート26の一方の線刻28Bと、ソールプレート16上の一方の線刻24Aを透明アクリル等を利用した可動式カーソル42、44に刻印し、目的の位置へ移動させて固定することにより、より正確にセットさせるようにしたものである。すなわち、上部カーソル42を打球線方向と平行にチェックプレート26の側縁とガイドとしてスライド移動し、下部カーソル44をソールプレート16の上面に形成したカーソルガイド46に案内させて打球線方向と直角方向にスライド移動させることにより、プレーヤーの望む位置、角度にバターをセットすることが可能となる。

【0017】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、バターヘッドの上面部分にスイートスポットの後方延長線に沿った線刻とフェイス面に平行な線刻から構成される十字線を刻設し、この刻設面の上方に離間配置して前記十字線と同様なチェック十字線を刻設したチェックプレートを設け、十字線およびチェック十字線を同時に視準可能としたので、打出し方向のみならず、バターフェイスのロフトやトゥ／ヒール傾きをも同時に最適状態にセットすることができ、一定のアドレスを確実に行うことができる効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例に係るバターヘッドの斜視図である。

【図2】同バターヘッドの横断面図である。

【図3】同縦断面図である。

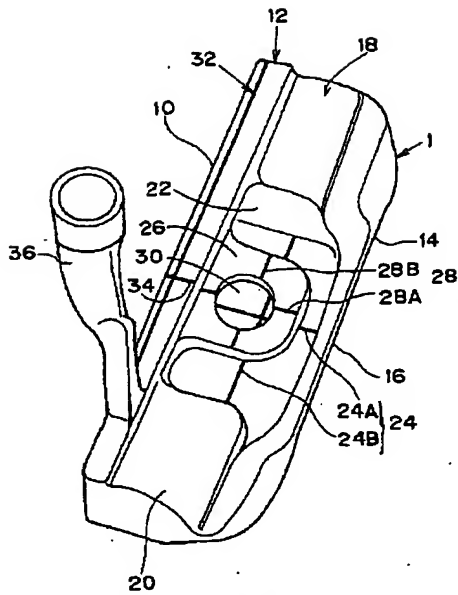
【図4】他の実施例に係るバターヘッドの要部説明図である。

【図5】更に他の実施例に係るバターヘッドの部分説明図である。

【符号の説明】

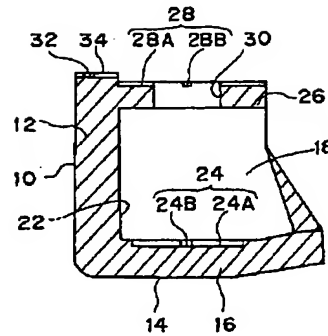
10	バターフェイス
12	フェイスプレート
14	ソール
16	ソールプレート
18	トゥブロック部
20	ヒールブロック部
22	凹陥部
24	十字線
26	チェックプレート
28	チェック十字線
30	円形窓
32	フェイス線刻
34	打出し方向線刻
36	ソケット

【図1】



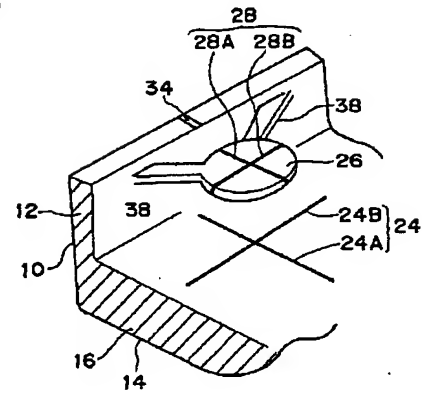
- | | |
|--------------|--------------|
| 10: バターフェイス | 24: 十字線 |
| 12: フェイスプレート | 26: チェックプレート |
| 14: ソール | 28: チェック十字線 |
| 16: ソールプレート | 30: 円形窓 |
| 18: トウブロック部 | 32: フェイス線割 |
| 20: ヒールブロック部 | 34: 押出し方向線割 |
| 22: 凹陥部 | 36: ソケット |

【図2】

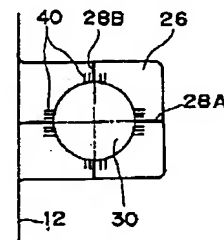


【図4】

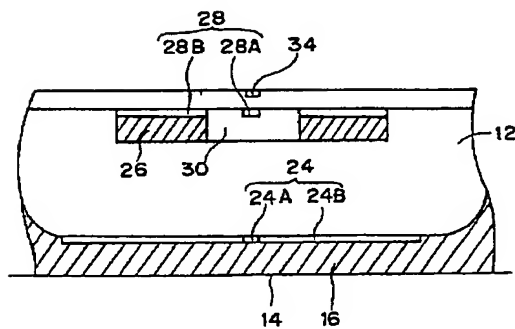
(1)



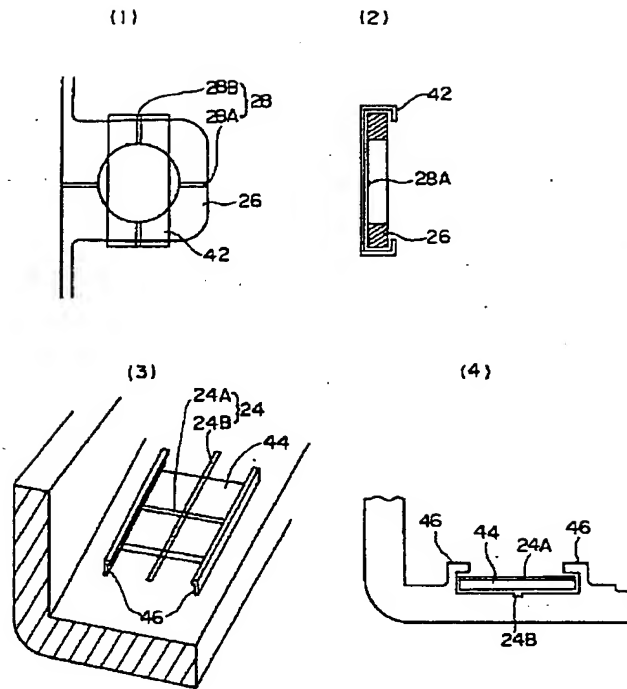
(2)



【図3】



【図5】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS

☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

☒ FADED TEXT OR DRAWING

☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

☐ SKEWED/SLANTED IMAGES

☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

☐ GRAY SCALE DOCUMENTS

☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.